

発行元：C T C 教育サービス

目次

新コース	Oracle Database 11g バックアップ・リカバリ Ruby on Rails Webアプリケーション開発入門
ニュース トピック コラム	技術コラム続々更新中！！ Inst. Tech View ~ 第18回 Rails3 技術者認定ブロンズ試験～ スーパーエンジニアの独り言 第16回 “四肢の王”

新 コ - ス

Oracle Database 11g バックアップ・リカバリ

3日間のコースで、Recovery Manager(RMAN)を使用したコマンドラインでのバックアップや各種フラッシュバック機能をご紹介します。
フラッシュバック機能は、10gから導入されたユーザーエラー（論理的なデータ破損）に対応したリカバリ機能で、バックアップファイルを使用せずに、且つ簡単なコマンドでデータを過去の状態に戻すことができます。
従来のリカバリ方法では、バックアップファイルのリストアに時間を要していましたが、フラッシュバックではリストアが伴わない為、高速なりカバリが可能です。また、新バージョンのリリースごとに新たなフラッシュバック機能が追加されています。当コースでも11gから導入されたフラッシュバックトランザクションやフラッシュバックデータベースなどを実機演習にて体験できます。

C T C 教育サービスでは、各種Oracle認定コースを開催しております。

コース名：Oracle Database 11g バックアップ・リカバリ

期間：3日間

価格：¥218,295（税込み）

<http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=897&m=14192&v=d3310ec4>

認定資格の詳細情報はこちら

資格関連情報

<http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=898&m=14192&v=316a61db>

Ruby on Rails Webアプリケーション開発入門

「Ruby on Rails Webアプリケーション開発入門」コースは、実際にアプリケーションを作成しながらRubyのフレームワークであるRuby on Railsにおける開発手法を学習するコースです。
Ruby on RailsでWebアプリケーションの開発を始めたい方に最適なコースとなっております。
このコースは、Railsのブロンズ資格試験にも対応した内容にもなっております。

コース名：Ruby on Rails Webアプリケーション開発入門

期間：3日間

価格：¥157,500（税込み）

<http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=899&m=14192&v=94e1f1d5>

ニ ュ - ス

技術コラム続々更新中！！

C T C 教育サービスWEBサイトにて、連載形式の技術コラムサイトを公開していますが、今月も興味深いコラムが盛りたくさん！
技術者の皆様に興味関心が高い分野をピックアップして、最新かつ有用なコラムを、連載形式でお届けします！

是非、ご一読ください！

<http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=900&m=14192&v=c1d96206>

最新コラムタイトル

- ・クラウドの自動化とインフラの「ソフトウェア化」を考える
筆者：レッドハット株式会社 エバンジェリスト 中井 悦司氏
- ・ネットワーク仮想化(1) VLAN/VXLAN
筆者：仮想化/OSSコンサルタント 志茂 吉建氏
- ・デスクトップ仮想化における重要なフレームワークとテクノロジー
シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社 小林 伸睦氏
- ・スーパーエンジニアの独り言
CTCテクノロジー株式会社 藤江 一博
- ・Inst. Tech View
CTCテクノロジー株式会社 インストラクター

毎月定期的にコラムを追加していきますので、
最新情報は是非WEBサイトにてご確認ください！

コラム一覧はこちらから

<http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=900&m=14192&v=c1d96206>

トピック

『 Inst. Tech View ~ 第18回 Rails3 技術者認定ブロンズ試験 』

今回のInst. Tech Viewは、Rails3 技術者認定ブロンズ試験についての話題です。

Ruby on Rails (以降Rails) は、プログラミング言語Rubyで作られたWebアプリケーションフレームワークです。フレームワークとは枠組みや構造という意味の用語で、Webアプリケーションフレームワークとはデータベースへのアクセスやセッション管理など、Webアプリケーション開発で必要となる要素をまとめて提供するソフトウェアのことを指します。近年、Webアプリケーションフレームワークは動的なWebサイトを短時間で開発するために必須のソフトウェアとなっており、Rails以外でも様々なプログラミング言語によって実装されています。

その中でもRailsは「Twitter」や「Groupon」、映画ストリーミング配信「Hulu」などの世界的なWebサイトで採用されています。日本国内では、「食べログ」や日本最大の料理サイトである「クックパッド」などのWebサイトでRailsが採用されています。

その他の採用事例について、ご興味のある方は以下のURLにアクセスしてください。

<http://rubyonrails.org/applications/>

Railsが利用されている理由の一つとして、フレームワーク自体が進化し続けている点が考えられます。Railsは作者であるDavid Heinemeier Hansson氏 (以降DHH) を中心としたコミュニティによって管理され、現在もフレームワークの開発が活発的に行われています。このコミュニティは、フレームワークをより良いものにするため、様々なアイデアをRailsに取り込んでいます。

フレームワークのアップデートは、Webアプリケーションを作る上で便利な機能が増えるため、開発者にとっては嬉しいことです。しかし、これからRailsを学習される方にとっては、基本的な内容を理解する妨げとなってしまう場合があります。そこで、Railsを初めて学習される方には、「Rails3 技術者認定ブロンズ試験」(以降ブロンズ試験)を学習目標として推奨いたします。

この試験は、Rails技術者認定試験運営委員会が、Railsの基本的な知識を評価するためのものです。

この試験では、今後のRailsバージョンアップでは変更されないRailsの基礎

となる知識が問われます。
そのため、資格取得を意識して学習することにより、Railsの基礎を効率よく学ぶ事ができます。

CTCテクノロジーでは、ブロンズ試験に対応した2コースを新しく開発いたしました。

1つは3日間の「R018: Ruby on Rails Webアプリケーション開発入門」です。こちらのコースはRailsを基礎から学習してフレームワークを使用したWebアプリケーションの開発ができるようになる事を目標とするコースです。さらにRails技術者認定運営委員会の認定テキストを使用しており、ブロンズ試験の受験を視野に入れた学習ができるようになっております。

もうひとつは、1日間の「R030: Rails 3 技術者認定ブロンズ試験対策」です。こちらのコースはRailsの知識をお持ちの方が試験ポイントのみを学習し、模擬試験を使用して受験に備える短期集中コースです。すでにRailsを利用している方がブロンズ試験を最短で合格するために適したコースとなっております。

Railsを基礎から学習したい方、ブロンズ試験に合格したい方のご受講を心よりお待ちしております。

コースの詳細情報はこちら：

R018: Ruby on Rails Webアプリケーション開発入門
<http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=899&m=14192&v=94e1f1d5>

R030: Rails 3 技術者認定ブロンズ試験対策
<http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=901&m=14192&v=6452f208>

コ ラ ム

『スーパーエンジニアの独り言 第16回 “四肢の王”』

筆者は門外漢ではありますが、思うところを今回の記事に書かせていただきます。その点、ご容赦くださいませ。

以前に、提唱者であるケント・ベック (Kent Beck) さんが自ら講師をされたテスト駆動開発 (Test-Driven Development, TDD) 講習に参加させていただいた事があります。TDDは、ステップ・バイ・ステップで機能をコツコツと創り上げる開発手法で、道具よりも開発サイクルが重要であると言っています。ユニットテストという杖 (ストック) を突いて一歩ずつ確実に歩みを進め山頂を目指す、これがテスト駆動開発の真意でした。

TDDは、エクストリーム・プログラミング (Extreme Programming, XP) という範疇の一つとされており、XPの中身は「プラクティス」の集合です。ペアプログラミングやリファクタリングなど、日々の開発作業をどのように進めるべきかの示唆であり、日々の慣習とすべき事柄の集合だと理解します。中でも「価値」としてコミュニケーション、フィードバック、そして勇気などの開発者及びチームを喚起する精神的な指針が提示されています。

そして近年では「アジャイル」という言葉が既に登場しておりますが、XPを含んだソフトウェア開発手法として認知され始めています。但し、企業が採用する予め計画を立てるウォーターフォールとは異なり、変化に応じて計画そのものに変更を加えていくスタイルは、それを適用出来る組織体や土壌が必ず必要となると考えられます。従って適用する形態も限られます。アジャイルという範疇では、スクラム (Scrum) という手法があります。ラグビーでのスクラムが語源で、チームビルディングでの慣わし事を決めて実践するものだそうです。

つい先日「アジャイル」関連セミナーに参加させていただいたのですが、このスクラムなどを実践するためのツール群があるようです。ホワイトボードに付箋紙を貼り付けるなどしなくても良さそうで、他のツール群と連携して動作できることが利点だそうです。しかしながら、結局はチームを上手く機能させ運営するのが目的であり、そのために日頃の習慣を定例化させるのでしょう。多くの部分がXP同様に精神論に紐付くと考えられます。

スクラムを部分的に実践しているソーシャル系開発企業のお話では、開発エンジニア自身がチームを運営しており、予算や計画変更までエンジニアが決定しているのだそうです。オーナーが一般顧客であり、その多様で刻々と変化するニーズに応えられなければ意味がないからだそうです。これは暗にアジャイルを適用する周囲の環境が必要であることを示しており、顧客である企業が開発者と共に変化しないと適用が難しいことは明白です。

これら開発手法は道具や手段が主体ではなく、開発メンバーの良好な精神状態を維持するのが重要な項目であり、完成した成果を状況に伴う変化に対応した有意義なものとするのが目的です。成果として、しばしば散見される無用の長物とならないようにするためでもありましょう。

近年全く運動していない筆者ですが、先日、綺麗な空気を吸う目的で郊外に行ってきました。そこで短い距離ですが、山登りをする羽目になりました。急で蛇行する山道ですが、大した距離ではないと思い展望台を目指します。坂を上り始めて、最初の数歩の時点でこれは登り切れないと感じました。案の定、すぐに身体は鉛のように重くなり、汗だくになりながら歩を進めます。下山する方々が横を過ぎ去って行き、次々と後から登ってくる方々が筆者を追い抜かして行きます。それでもめげずに、ゆっくり一歩ずつ坂を上ります。途中で諦めて降りてくるしかないとも思いましたが、下りは更に大変です。途中で小休止を取りながら、息を整えます。肺の奥まで深く息を吸い込み、腕を振って、血液に酸素を取り込んで、脚の筋肉よ、動けと脳から命令を伝達します。無数の方々に追い抜かれながらもマイペースを持続しつつ、右脚、左脚、一歩、また一歩と歩みを進めます。やがて、勾配が無くなり、目指していた展望台に着きました。可也の時間を費やし、汗だくになって何とか目的地に到着出来ました。

どんなに歩みが鈍くても、歩みを止めないことで着実に前に進むことを体感しました。少し位、後戻りしたとしても気落ちせず、再度前に進もうという心持ちが大事なのでしょう。そして一緒にゴールを目指してくれる仲間と一緒に登ることが一番大事な要素でしょう。説明せずとも対峙している状況を共有している仲間の存在が力を与えてくれます。達成した際の喜びを分かち合うことが出来るのは、苦楽を共にした仲間なのですから。

そして、色々な方々が登山をされている気持ちがほんの少しだけですが、判ったような気がしました。気のせいかもしれませんが。

因みに、タイトルの「四肢の王 (King of Limbs)」というのは、イングランド南部の森に住む樹齢千年の木 (オーク) を意味します。

では、次回もお楽しみに。

お問合せ・ご意見・ご感想は、CTC教育サービス 窓口まで
シーティーシー・テクノロジー株式会社 エデュケーションサービス部
E-Mail: kyouiku@ctc-g.co.jp / TEL: 03-5712-8701

外部委託について

弊社はメールニュース配信業務をシーティーシー・ビジネスサービス株式会社 (CTC 100%出資子会社) に委託しております。

本メールマガジン編集・配信責任者

CTCT エデュケーションサービス部 部長 篠原 義一

所在地: 東京都世田谷区駒沢1-16-7 ctc_edu_mail@ctc-g.co.jp

個人情報保護方針

CTCグループの個人情報保護方針につきましては下記URLをご参照ください。

http://www.ctc-g.co.jp/guide/security_policy.html?top=b_security

配信中止及びお問合せ対応について

- ・「CTC教育サービス News&Topics」の配信が不要な場合には、下記URLから配信停止のお手続きを行ってください。
<https://krs.bz/ctc-g/m/ctc-education>
- ・当社では、複数種類のメールマガジンやメールニュースを発行しております。大変お手数ではございますが、CTC教育サービス以外からのメール配信についての受信拒否および個人情報に関するご要求は、各メールに記載の個々の連絡先宛にそれぞれご連絡をお願いします。
- ・受信者ご本人様からの個人情報の開示・訂正・削除に関するご要求は、随時

ctc201210
ctc_edu_mail@ctc-g.co.jpにてお受けいたします。